

平成 27 年度 学校経営計画及び学校評価

1. めざす学校像

私たちの学校は、YMCA の正章に掲げる Spirit(精神)・Mind(知性)・Body(身体)のバランスを保ち、未来に希望を持ちチェンジメーカーとなる（＝社会をよりよく変えていく）青年を育むための、自由で解(ひら)かれた学校である。

1. 自分のペースで自分らしく学び、学ぶ楽しさを知ることから自分の中にある可能性を見つける。(学び)
2. 自分の将来に夢と希望を持って歩む進路を見つけ、目標に向かって進む力を身につける。(進路)
3. グローバルな視点に立って物事を考え、世界の平和を創り出す人材を育てる。(グローバル)
4. イエス・キリストの愛と希望の生き方に学び、一人ひとりの尊厳を認め、互いの存在を大切にし、信頼しあえる人間を育む。(自尊心)

2. 中期的目標

1. 学びの基礎を身につける

(1) スクーリング内容の充実

・ここ数年、当校に入学する生徒層に変化が見られ、自学自習を推し進めるよりも、できるだけ学校に通うことを勧め、スクーリングの中でも知識習得はもちろんであるが、人間関係を育む取り組みを実施する。ホームルームを活用してのペアワークや、「産業社会と人間」において、将来の進路について考えながらも「なぜ、今、勉強が必要なのか?」についても伝える取り組みを充実させる。

・講師会において特に配慮の必要な生徒情報を共有し、スクーリングの進め方について、一人ひとりに寄り添いながら学習を進められるように働きかける。

・アクティブラーニングの導入に向けての基盤を確立する。

＊生徒のアンケートにおけるスクーリングに関する満足度を平成 27 年度 80%以上、平成 29 年度には、90%以上を目指す。また、総合学科の特色を活かし、生徒の興味を引き出しながら将来の夢の実現を目指す。総合選択科目に関する満足度を平成 27 年度 80%以上、平成 29 年度には、85%以上を目指す。(※各年度の目標％は、肯定的評価の合計数とする。)

(2) 学力定着のサポート

・まずは、安心して学校に通える環境を作り、生徒一人ひとりの居場所となるように努める。その中で、一人ひとりにあった学びなおしができるようにサポートを充実させる。

・ICT を活用し、一人ひとりの学習習熟度を把握できるシステムを構築する。

＊物理的な環境の充実からサポートできるように校内の施設や設備の満足度を平成 27 年度 85%以上、平成 29 年度には、90%以上を目指す。また、教員が一人ひとりの声に耳を傾け、親身になって支援を行う。生徒並びに保護者の学習サポートに関する満足度を平成 27 年度 85%以上、平成 29 年度には、95%以上を目指す。

2. 生徒一人ひとりに添った進路支援

(1) 個人の課題に対応するキャリア支援の充実

・進学、就職に関するガイダンスを定期的実施するとともに、「産業社会と人間」において、教員と生徒が仕事とは何かについて一緒になって考え、親身になって生徒一人ひとりに沿った進路を見つける支援を充実させる。

・多様化する進路選択について各大学、専門学校、企業からの情報を直接専門家から聞ける機会を提供するとともに、個別面談や校内掲示にて常に新しい情報を提供する。

＊生徒のアンケートにおいて、教員が親身になって一人ひとりに対応している満足度を平成 27 年度 90%以上、平成 29 年度以降も 90%以上を保つ。(平成 26 年度、90%)

＊生徒のアンケートにおける進路につての情報提供満足度を平成 27 年度 90%以上、平成 29 年度には、95%以上を目指す。(平成 26 年度、86%)

(2) 自己実現可能な支援と環境の整備

・ボランティア活動を通して自分自身が活かされていることを実感し、将来の夢の実現に向けて積極的に取り組めるように支援する。また、企業でのインターンシップも充実させる。

＊YMCA ネットワークを活かしたボランティア活動情報定期的に提供し、参加する機会を広げる。生徒の満足度を平成 27 年度 75%以上、平成 29 年度には、80%以上を目指す

3. グローバルな視野を持つ人材の育成

(1) YMCA の特徴を活かした海外交流プログラムの充実

・YMCA のネットワークを通して海外の学生と交流する機会を提供し、海外の文化に興味を持ち、グローバルな視点に立って物事を考える機会を持つ。

＊生徒におけるアンケートにおいて、海外の学生との交流プログラムイベントなどの機会提供の充実について平成 27 年度 75%以上、平成 29 年度には、90%以上を目指す。

(2) グローバルコミュニケーション力を身につける

・総合選択科目における多文化共生系列他、スクーリングを通して世界中のどのような場面でも自分の考えを相手に伝え、相手の思いを受け止めるコミュニケーション力を身につける機会を提供する。また、YMC Aがこれまで開発してきた分野でのクラスを新設する。 ＊生徒におけるアンケートにおいて、他の学校にない特色ある科目についての満足度を平成 27 年度 75%以上、平成 29 年度には、90%以上を目指す。 ＊平成 27 年度は準備の時とし、平成 28 年度からグローバルクラスを始める。
4. 生徒・教職員に寄り添う教育環境の整備 (1) 生徒一人ひとりに関わる環境を整える ・祈りに始まり祈りに終わるように、常の相手のことを考え、関わりあえる環境を作っていく。教職員が、保護者との連携を密にし、生徒が学校生活を過ごしやすいように整える努力をする。また、特別活動への参加を促し、教職員が中間者となって友人関係が作れる環境を創り出していく。 ＊生徒のアンケートにおけるいつでも相談できる場所や人が整っている環境への満足度を 平成 27 年度 80%以上、平成 29 年度には、90%以上を目指す。 ＊生徒のアンケートにおける家庭や職場の協力が得られる満足度を平成 27 年度 90%以上、平成 29 年度には、95%以上を目指す。（平成 26 年度、89%） ＊特別活動などへの参加満足度を平成 27 年度 80%以上、平成 29 年度には、90%以上を目指す。（平成 26 年度、72%） (2) I C T並びに情報提供環境整備と充実 ・情報に関するスクーリングのほか、I C Tを駆使した学習システムを導入し、生徒一人ひとりにとってわかりやすく、課題解決できる環境を整える。今まで以上にプロジェクターを活用し、視覚にも訴えた学習環境を整える。 ・郵送による学校通信のみではなく、いつでもどこからでも見ることでできる情報提供の環境を整備する。 ＊学校通信を生徒や保護者にとってよりわかりやすい内容に改訂し、学校が目指す教育理念や通信制における学習システムについて理解を深める。生徒のアンケートにおける理解状況を平成 27 年度 90%以上、平成 29 年度には、95%以上を目指す。（平成 26 年度、89%）また、スクールモットー理解の浸透を平成 27 年度 80%以上、平成 29 年度には、90%以上を目指す。 (3) 学校運営責任者の育成 ・社会課題を分析することから、高校として取り組むべき課題を抽出し、解決に導くプロセスを提案実行する力を養う。 ・教職員のチームをまとめ生徒や保護者を幸せに導くリーダーシップを養う。 ・財務関係はもとより、学校運営を支える組織についても理解を深める。

【教職員自己評価の結果と分析・学校評価委員会からの意見】

教職員自己評価の結果と分析〔平成 28 年 8 月実施分〕	学校評価委員会からの意見
1. 学びの基礎を身につける ここ数年で当校に入学する生徒層に変化が見られ、自学自習を習慣づけられる生徒が減少し、特に基礎学力が低い層の増加がみられるようになった。そこで、レポート内容を見直し、教科間の格差を是正する取り組みを始めた。問 3 にあるように教育計画についても見直し、各科目の学習計画において、まだまだ改善の余地はあるが、生徒の学力に応じて作成されるようになった。肯定的評価が、平成 27 年度 52.9%となった。（平成 26 年度 37.5%）レポートの見直しは、生徒のアンケートからもその効果が見て取れる。「レポートの難しさは適切だと思う。」平成 26 年度 76.6%→平成 27 年度 87.1%、「レポートはわかりやすく工夫されていると思う。」平成 26 年度 72.9%→平成 27 年度 83.0%と満足度は上がっている。 また、生徒支援としての学び直しを含めた学習支援は、生徒一人ひとりに沿った支援ができるように個別面談の強化とともに工夫と改善が進んでいる。問 32 学習支援についての工夫・改善評価が、平成 26 年度 50.0%→平成 27 年度 58.8%となった。生徒のアンケートからも「教員は熱心に情熱をもって、授業に取り組んでいつように思う。」平成 27 年度 87.6%と高い満足度を示している。 今後は、学びを深められる施設環境の整備を行い、特に I C Tを活用した教育にも力を注ぎ、アクティブラーニングの本格的な導入に備えていく。 2. 一人ひとりに添った進路を見つける 多様化する進路選択を整理し、一人ひとりにあった進路指導ができるように「産業社会と人間」の内容を見直した。将来の夢の実現に向けて、今、何を準備しておく時なのかを教職員が生徒に親身になって関わり、共に考え寄り添うことは、特にこの年代において信頼できる大人の存在を確認し、自分は一人ではなく愛されている存在であること、認められている存在であることに気づき、自尊心を持って前に歩む力を持てるようになる。問 33 進路支援について生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制の充実評価が、平成 26 年度 75.0%→平成 27 年度 94.1%となった。生徒のアンケートからも「本校は進路支援につ	【第 1 回 4 月 27 日(水) 】 ○ 学院が設立されたころの生徒層と現在の生徒層では、社会の変化とともに変わってきていると考えられる。その現状に対して、どのような対策をとってきたのかについて、教職員間で十分に協議し確認する必要がある。 ○ 不登校生を多く受け入れている現状があるのであれば、不登校になった原因を分析し、一人ひとりに合った内容のレポートを作成することも考えてはどうか。レポートは統一しておく必要があるのであれば、補助教材を用いて学習支援する必要がある。 ○ スクールボランティアを導入し、学力差のある生徒支援を充実させることも考え、学院全体の支援体制を整えてはどうか。ただし、養成には時間を要するので、次年度の課題とする。 ○ 臨床心理士が常駐し、カウンセラーを配置する体制は、他校にはない。また、養護教諭も常駐している環境は、多様な不登校経験者にとっては、安心できる居場所であると考えられる。今後もこの環境を維持向上できるようにしていただきたい。 ○ 年度末に実施した生徒並びに保護者からのアンケートの回収率をもう少し上げられないか。ホームルームの活用など、検討してほしい。 【第 2 回 7 月 27 日(水) 】 ○ 学び直しについての取組は、急務である。不登校になる原因の一つが発達に課題があり集中できなかったり、文字を書き写すことができなかったりと学習が定着できない状況にあることが考えられる。生徒の状況を把握し、早期に対応することで、学び直しの方法が見つかり、学校に通えるようになることが多い。 ○ 文部科学省から出ている指導要領変更に基づくアクティブラーニングにつて教職員が共通した方向性を持っておく必要がある。今後、研修会を実施し、全教職員が、全科目のスクーリングで実施できるように計画を立てて情報を整理し、ツールをそろえていく。 ○ アクティブラーニングという言葉だけに捉われず Y が大切にしてきた

いて適切な相談や情報提供ができていと思う。」平成 26 年度 86.0%→平成 27 年度 92.3%と高い満足度を示している。 また、YMCA のネットワークを活用したボランティア情報を定期的に発信し、生徒自身が、ボランティア経験を通して社会で活かされる実感を育むみ、自己実現に向けて支援している。問 23 ボランティア活動は活発に行われているかについての評価が、平成 26 年度 62.5%→平成 27 年度 76.4%と大幅な上昇となっている。 今後も引き続きボランティア活動を推進し、生徒一人ひとりに寄り添ったキャリア支援につなげていきたい。 3. グローバルな視野を持つ人材の育成 インターネットの普及により世界中の情報が瞬時に手に入るようになった現在、世界中のどのような場面でも自分の考えを相手に伝え、相手の思いを受け止めるコミュニケーション力を身につけることは、相手の文化を認め、尊重し、互いに理解することから、平和を創り出す人材の育成へとつながると考える。YMCA のネットワークを活用した国際交流の機会（香港の高校生との交流プログラム、世界中のユースが集うグローバルユースカンファレンスなど）を提供することは、言葉のコミュニケーションはもちろんのこと、直接かかわりあうことで世界を身近に感じ、自分自身を見つめなおす機会にもつながっている。問 26 他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れているについて、平成 26 年度 75.0%→平成 27 年度 76.5%と安定した評価が得られているが、平成 29 年度に 90%の浸透を目指すためには、生徒に対してより一層のアプローチと内容の充実が必要である。 今後は、さらにスクーリングでも YMCA の特色を活かした独自の教育環境を整備しグローバルな視野を持つ人材の育成に力を注いでいく。 4. 生徒・教職員に寄り添う教育環境の整備 スクールミッションを再度確認することから、関わりあう学校づくりを行った。問 1 のスクールミッションの浸透については、平成 26 年度 62.5%→平成 27 年度 76.5%となり、教職員の意識も高まっていることを示している。教職員が、今まで以上に生徒への関わりを大切にすることになったことは、問 28 の生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある点において平成 26 年度 56.3%→平成 27 年度 70.6%と学校全体での意識も高まっていることを示しているが、内部評価としてはまだまだ十分とは言えない。しかし、保護者へのアンケート「学校は家庭と連携した生徒支援ができてい。」満足度が、平成 26 年度 71.8%→平成 27 年度 85.3%とアップしていることから、教職員の努力が伝わっていることがよくわかる。 生徒一人に関わり、寄り添う体制は、問 31 のカウンセリングマインドを取り入れた支援体制の充実について平成 26 年度 100%→平成 27 年度 94.1%と減少したが、これは、関わりあう大切さを教職員が今まで以上に意識したための結果であると考えられる。 郵送による学校通信のみではなく、いつでもどこからでも見ることのできる情報提供の環境を整備については、問 10 のホームページの活用状況において平成 26 年度 43.8%→平成 27 年度 82.4%と大幅な改善が見られた。これは、保護者へのアンケートにある「HP の情報は、本校を理解するうえで分かりやすい内容となっている。」の満足度が平成 27 年度 94.1%と非常に高い結果となっていることからみとれる。 学校運営責任者の育成については、まず、全体の底上げを意識し、校内研修を強化した。特に YMCA の独自性を活かしたクラスを新たに取入れるために多くの時間を割いて協議をしてきたが、問 35 にあるように校内研修に対する満足度は、平成 26 年度 56.3%→平成 27 年度 58.9%とほぼ横ばいである。このことは、これまでの「生徒自身の自主性を尊重し、自学自習を進める」学校から、多様な課題（不登校や発達に課題）を持った生徒が増えている現状を考慮し、「生徒に関わり、学び直しにも十分に取り組む」学校へと変化してきている途上にあり、教職員間にも迷いがあることがうかがえる。 今後も関わることを大切にする学校づくりを推進し生徒・教職員に寄り添う教育環境の整備につとめていく。	強みを意識した方がよい。「どのように社会と世界と関わり、よりよい人生を送るか、自分と向き合うか」について生徒とともに感る機会とする。 【第 3 回 8 月 31 日(水)】 ○ YMCA のネットワークを活用したボランティア活動は、生徒や保護者にとっても安心で、対人関係を学び、社会を知るうえで大変重要な活動である。また、自分自身が認められる存在であることに気づき、自尊心を持つようになる。今後も継続して生徒が参加できるようにタイムリーな情報が提供できるようにしておく。同時に保護者やその家族も関われるような環境も作ってほしい。 ○ 情報提供でいうと、現在、学校通信が紙ベースで各家庭に毎月郵送されている。ホームページにもそのデータが掲載されている。今後、よりタイムリーに直接有益な情報が生徒と保護者に届くように SNS の活用を検討していく必要がある。 ○ 進路支援については、生徒一人ひとりに即したアプローチがなされ、評価されていることは喜ばしいことである。しかし、中には、進路が見つからないまま卒業を迎える生徒もいる。アウトプットを意識し、将来に夢を持って歩めるように関わってほしい。具体的には、面談の充実、進路支援における体験型キャリア支援を推進する。 ○ 後期から入学する生徒のために秋の特別活動を新設し、友達を作りやすい環境を提供したことは評価できる。人間関係をうまく構築できない生徒には、より関わりながら、対人関係スキルを学ぶ機会を増やしてほしい。ホームルームの活用も課題である。 ○ 海外交流プログラムが実施され、学院高校の生徒も参加した。今まで情報が行き届かなかったことや、参加できるチャンスを促す意識が、教職員自身に低かったことは残念である。今後は、グローバルな視点をもって物事を考えられるユースの育成に力を注いでほしい。 【第 4 回 9 月 28 日(水)】 ○ 生徒層の変化から、学校に 5 日間通いたいと考えている生徒が増えてきている。そのニーズにこたえられるクラスの設定を考える必要がある。通信制の利点を活かし、YMCA の独自性を備えたクラスを考えていく。 ○ また、現在あるクラスの良い点、十分なサポートが期待できるクラス、居場所が確保されたクラスなどと並行して考えることで、生徒の選択の幅が増え、一人ひとりの夢の実現に一步近づくことができる。 ○ 教職員自己評価の中で、財務状況の把握や、理事、評議員についての理解が低いのは、ある面仕方がない。財務に関する意識のみで良いのではないか。 ○ 教員研修の項目が全体的に低いのに危機感を覚える。しかし、現在、変化の時を迎えているため、各教職員に理解のタイムラグが生じていると考えられる。変革が遂行され、キリスト教教育の実践とともに生徒、保護者、教職員がともに幸せになれるように今を乗り切ってほしい。 ○ 今回のアンケート項目について、今後はより具体的に比較しやすい項目を増やすことを提案する。また、各質問項目に No. を振っておくことが望ましい。 ○ 生徒、保護者には、教職員の関わりの努力が伝わり、認められていることがわかる。今後も関わる学校として歩みを強めてほしい。
---	--

3. 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み計画	評価指標	自己評価
H 学びの基礎を身につける	(1) スクーリングの進め方が、一人ひとりに寄り添った進行となるように努める。	(ア) ホームルームの中で、ペアワークを実施し、互いに関わりあう関係づくりを行い、スクーリングでの講師との関係づくりがしやすい状況を作った。	(ア) 生徒のアンケートにおけるスクーリングに関する満足度を平成27年度80%以上(平成26年度77.7%)	(ア) 生徒の学校評価アンケート項目「スクーリングではわかりやすい学習指導をしていると思う。」の肯定的評価を基準とし、平成27年度実績は、83.6%であった。(○)
	(2) 学び直しができる環境を充実させる。	(イ) 校内施設設備を再整備しICTを活用したYラーニング(PCやタブレットからもアクセスできる家庭でも自分の学力レベルにそった学び直しができるシステム)での学び直しを推進した。	(イ) 生徒のアンケートにおける校内の施設や設備の満足度を平成27年度90%以上(平成26年度89.8%)	(イ) 生徒の学校評価アンケート項目「校内の施設や設備は充実していると思う。」の肯定的評価を基準とし、平成27年度実績は、94.7%であった。(○)
H 一人ひとりに添った進路を見つける	(3) レポート内容を見直し、生徒の学習レベルに沿った内容に改編する。	(ウ) 「学び直し」を講座にいれ、月～金、一日1～3回設定し、誰もが学び直しをしやすい環境設定をした。	(ウ) (エ)生徒並びに保護者の学習サポートに関するアンケートの満足度を平成27年度85%以上	(ウ) (エ) 生徒の学校評価アンケート項目「教員は熱心に情熱を持って、授業に取り組んでいるように思う。」の肯定的評価を基準とし、平成27年度実績は、83.6%であった。(○)
	(4) アクティブラーニングの導入についての研究を行う。	(エ) アシストルームでレポート指導を行った。		保護者の学校評価アンケート項目「基礎的な学力を身につけさせる指導がなされているように思う。」の肯定的評価を基準とし、平成27年度実績は、82.8%であった。(平成26年度77.7%)(○)
				※「学び直し」講座は、50%の生徒が登録した。
H 一人ひとりに添った進路を見つける	(1) 進路・就職ガイダンスを定期的実施し、その後、個別面談を行うことで学びを整理し深めるようにする。	(ア) 産業社会と人間のスクーリング内容を見直し、より生徒に寄り添った組み立てとした。	(ア) (イ)生徒のアンケートにおいて、教員が親身になって一人ひとりに対応している満足度を平成27年度90%以上(平成26年度90.9%)	(ア) (イ)生徒の学校評価アンケート項目「本校は質問や相談に対して親身になって対応していると思う。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、96.5%であった。(○)
	(2) 適切な進路支援情報も提供する。	(イ) 保護者交流会も見直し、グループワークを取り入れてより交流し発言しやすい状況を作るようにした。	(イ) 生徒のアンケートにおける進路支援について適切な相談や情報提供ができている点において平成27年度90%以上(平成26年度86.0%)	(イ) 生徒の学校評価アンケート項目「本校は進路支援について適切な相談や情報提供ができていると思う。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、92.3%であった。(○)
H 一人ひとりに添った進路を見つける	(3) ボランティア活動に関する情報を積極的に提供し、参加をうながす。	(ウ) 校内掲示板を活用し、進路支援情報を校内掲示などで生徒に知らせるようにした。	(ウ) 生徒のアンケートにおいて学校よりYMCAネットワークを活かしたボランティア活動情報が定期的に提供され、参加する機会を得た生徒の満足度を平成27年度75%以上、(平成26年度62.8%)	(ウ) (オ) 生徒の学校評価アンケート項目「地域の人たちも一緒に参加する活動があり満足である。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、74.6%であった。(○)
		(エ) 職場見学などを積極的に取り入れ、生徒が進路を実感しやすい状況を作るようにした。	(エ) (オ)生徒のアンケートにおいて学校よりYMCAネットワークを活かしたボランティア活動情報が定期的に提供され、参加する機会を得た生徒の満足度を平成27年度75%以上(平成26年度75%以上(平成26年度項目なし)	保護者の学校評価アンケート項目「学校教育以外でも生徒が活動できる場が充実している。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、91.8%であった。(平成26年度77.7%)(○)

☞ グローバルな視野を持つ人材の育成	(1) YMCAのネットワークを最大限に活かし、海外交流をする機会を提供する。 (2) 総合学科の特徴を活かした総合選択科目を実施する。	(ア) 香港の高校生との交流、グローバルユースカンファレンス開催、カナダ短期語学留学等、海外研修プログラムを実施した。 (イ) YMCA英語幼稚園やアジア学院受け入れプログラムなどYMCAの資源を活かした世界を身近に感じることのできるボランティア活動を推進した。 (ウ) ピンクシャツデイ(いじめをなくす運動:カナダより発信)にかかわる機会を持った。	(ア) 生徒におけるアンケートにおいて、海外の学生との交流プログラムイベントなどの機会提供の充実について平成27年度75%以上(平成26年度62.8%) (イ)(ウ)生徒におけるアンケートにおいて、他の学校にない特色ある科目についての満足度を平成27年度75%以上	(ア) 生徒の学校評価アンケート項目「イベントなどを通して地域の方々と交流する機会が充実していると思う。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、74.4%であった。(△) (イ)(ウ) 生徒の学校評価アンケート項目「他の学校にない特色ある科目についての満足している。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、86.5%であった。(○)
✈ 生徒・教職員に寄り添う教育環境の整備	(1) 生徒一人ひとりに寄り添う体制づくりの強化に努める。 (2) 特別活動を通して友達作りを促す。 (3) 校内研修を強化し、再度学校の教育方針、生徒との関わり方(発達に課題を持った生徒との関係含む)について学びを深め、共通理解する。	(ア) 転編入生の入学時、担任との顔が見える関係性を作り、卒業まで保護者とも連携する体制を作った。 (イ) 生徒支援アドバイザー(原田先生)を導入した。 (ウ) コースごとで実施していた春のハイキングに加えて秋もハイキングを実施した。 (エ) 教職員間でスクールミッションを再確認し、現在の生徒に合った関わり方について研究し、新しいクラスを創造する機会を設けた。	(ア) 生徒のアンケートにおけるいつでも相談できる場所や人が整っている環境への満足度を平成27年度80%以上。保護者のアンケートにおける家庭との連携の満足度を平成27年度80%以上(平成26年度、71.8%) (イ) 保護者のアンケートにおける生徒支援に対する満足度を平成27年度85%以上(平成26年度、81.9%) (ウ) 生徒のアンケートにおける特別活動などへの参加満足度を平成27年度80%以上(平成26年度、72.1%) (エ) 教職員自己評価のスクールミッションの浸透を平成27年度70%以上(平成26年度、62.5%)校内研修の充実について平成27年度70%以上(平成26年度、56.3%)	(ア) 生徒の学校評価アンケート項目「いつでも相談できる場所や人が整っている環境が整っていると思う。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、91.7%であった。(○) 保護者の学校評価アンケート項目「学校は家庭と連携した生徒支援ができている。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、85.3%であった。(○) (イ) 保護者の学校評価アンケート項目「教員のお子様への対応の仕方に満足している。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、95.1%であった。(○) (ウ) 生徒の学校評価アンケート項目「特別活動などの学校行事は生徒が参加しやすいものであると思う。」の肯定的評価は、平成27年度実績は、83.5%であった。(○) (エ) 教職員自己評価における項目「スクールミッションが教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。」の肯定的評価は、平成27年度実績76.5%であった。(○) 「効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。」の肯定的評価は、平成27年度実績58.9%であった。(×)